

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミⅡ	チーム名	うなぎパイ
タイトル	ウナ重はなぜ高い？～絶滅危惧種の国際資源管理～		
テーマ群	c)公共経済 d)国際経済		
メンバー			
研究計画内容	<p>【研究背景】「ウナギといえば、やっぱりウナ重だよね。でも実際食べたことないなあ。」と私たちの班で話始めたのが、このテーマに関心を持ったきっかけでした。ウナ重の並みの値段「梅」を調べると 2500～3000 円、高い方の「松」だと 4000～5000 円になり、7・8 月の丑の日にはさらに値段は上がり高嶺の花です。しかし、今から 10～15 年前はそれほどでもなく、値段が上がった起点となったのが 2012・2013 年の「シラスウナギ不足」の深刻化でした。こうした価格高騰、また、ウナギが「絶滅危惧種」に指定されている背後にはどのような問題があるのでしょうか？この研究では、ウナギを具体的事例とした再生可能資源の管理の失敗と回復策について調査・分析を行います。</p> <p>【研究方法】</p> <p>次のような内容に従って調査・分析を進めていきます。</p> <p>(1) 日本のウナギの供給構造の特徴とその変遷について調査・分析します。私たちが普段なにげなく口にしているウナギがどのようなルートで供給されているかは、ほとんどの人が知りません。そこで最初に、日本のウナギ供給構造の特徴を調べ、それが過去どのように推移してきたかを明らかにします。特に、2000 年の 15 万トンを超えて現在のウナギ供給が 5 万トンに激減している事実の背景に焦点を当てる予定です。</p> <p>(2) ウナギの「採り過ぎ」がウナギ価格高騰の主因であることは、常識的に誰でも知っていることです。でも、「採り過ぎ」ってどのような状態なのでしょう？ニホンウナギ供給激減のメカニズムとワシントン条約を含む国際資源管理の在り方を、漁業資源経済学の視点から調査・分析します。</p> <p>(3) 日本のウナギ供給管理制度とその課題について調査・分析します。国際資源管理の仕組みに係る 4 カ国共同声明の後、2015 年 6 月に日本はウナギ養殖業を許可制とし、稚魚の池入れ規制を開始しました。その内容と残された問題を、日本国内および海外からの密漁シラスウナギに焦点を当てて調査・分析します。</p>		